

## はじめに

少子高齢化の進行、技術革新とグローバル化の進展など社会の変化は加速度を増し、将来を見通すことが困難になっています。こうした中、学校教育では、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質や能力を育成することが求められています。生涯学習では、人生 100 年時代を見据え、多様化する人々の価値観に対応した学習機会の提供や学習環境の整備が求められています。

平成 29 年 3 月に改定した「めぐろ学校教育プラン」の 2 年目に当たる平成 30 年度は、同プランに掲げる学校教育に関する諸施策の着実な推進に努めました。

新学習指導要領の全面実施等を見据えた取組では、小学校で「特別の教科 道徳」の授業を開始するとともに、令和元年度から中学校で使用する教科書の採択を行いました。また、区独自教材も活用しながら、小学校第 5・6 学年における英語教育を全国に先駆けて開始するとともに、中学校では、東京都が新たに開設した体験型英語学習施設「TOKYO GLOBAL GATEWAY」を活用した日帰り体験事業を実施しました。

小学校における午前 5 時間制の取組では、文部科学省の委託による調査・研究の成果を踏まえ、9 月に実施校による研究発表会を開催し、その成果を全国に向けて発信しました。

いじめ・不登校に関しては、未然防止等の取組の強化に向け、人権教育の一層の充実を図るとともに、よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケートを一部の中学校区で試行実施しました。

特別支援教育では、全教員向けに合理的配慮の提供事例集を作成・配布するなど、児童・生徒の課題に応じた指導の充実に向け、特別支援教育の視点を持つ教員の育成を図りました。

また、他自治体で発生した事故・事件を踏まえ、通学路のブロック塀等の点検や防犯の観点を含めた通学路の点検により、子どもたちの安全・安心の確保に努めました。

さらに、学校における働き方改革が全国的な課題となる中、平成 31 年 3 月に「目黒区立学校（園）における働き方改革実行プログラム」を策定し、継続的に学校の働き方改革に取り組むこととしました。

本書は、目黒区教育委員会が平成 30 年度に取り組んだ事業内容をまとめたものです。皆様のお役に立てていただければ幸いです。

今後とも「豊かな人間性をはぐくむ、文化の香り高いまち」の実現に向け、目黒の教育のより一層の充実に向けてまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和元年 8 月

目黒区教育委員会教育長

尾崎 富雄